

●講義概要

この科目では、各人の市民社会でのあり方を、異文化間、とくにフランス語圏の言語文化を通じた学びから深めるため、いくつかのアクティビティをもとに考えていきます。

多文化社会化は世界的な流れであり、大都市やネット空間ばかりでなく、地方にも直接・間接的に波及しています。またこれまでの外交感覚の未熟と向き合い、個々の生活や欲求の充足はもとより、自ら思考し判断し自身の夢や希望を実現してゆくためにも、このような市民社会の変容、またそこに表れる価値観の多様性に無頓着ではいられません。

そもそも異文化間能力とは、言語文化学習のみならず、学び一般においても決して補完的な能力ではないのです。そこで、価値観のギャップや葛藤、対立などの対処について、一人ひとりのこれまでの言語学習やさまざまな他者性の経験をもとに、本質探求的（クリティカル）思考を重ねながら市民性への理解を深め、市民社会でのあり方や対話における言語使用に関する自己信頼を高めていきます。

●履修条件

フランス語インテンシブ 4 修了。または資格試験合格者。

●教材・参考文献

特に指定の教材はありません。

今学期も引き続き、関心の高い社会問題に取材した新聞資料や図書、各種リファレンスなどを扱いたいと思います。

参考文献については授業で案内します。以下はあくまで参考です。

- 上野千鶴子『当事者主権』,岩波新書, 201.
- 塩出浩之『越境者の政治史—アジア太平洋における日本人の移民と植民—』,名古屋大学出版会,2015.
- 加藤典洋『増補改訂 日本の無思想』平凡社, 2016.
- 西山教行, 細川英雄,大木充編『異文化間教育とは何か—グローバル人材育成のために』くろしお出版, 2015.
- 開沼博『「フクシマ」論 原子カムラはなぜ生まれたのか』青土社, 2011.
- 細川英雄, 尾辻恵美, マルチェラ・マリオッティ編『市民性形成とことばの教育-母語・第二言語・外国語を超えて』くろしお出版, 2016.
- 馬淵仁『「多文化共生」は可能か—教育における挑戦』, 勁草書房, 2011.
- 三森ゆりか『外国語を身につけるための日本語レッスン』白水社, 2003.
- 三森ゆりか『大学生・社会人のための言語技術トレーニング』大修館書店, 2013.
- ヴァレリー・ノールズ『カナダ移民史—多民族社会の形成』明石書店,2014.

- ジェラルド・ノワリエル『フランスという坩堝：一九世紀から二〇世紀の移民史』みすず書房,2015.
- マイケル・バイラム『相互文化的能力を育む外国語教育』大修館書店,2015.
- OECD 教育研究革新センター編著『グローバル化と言語能力 自己と他者、そして世界をどうみるか』明石書店, 2015.
- Martine Abdallah-Pretceille, « L'education interculturelle », coll. Que sais-je, PUF, 2013.
- A. Giordan & J. Saltet, « Apprendre à apprendre », Libro Mémo, 2011.

●主題と目標

内外の社会問題について、個々に日本語や英語やその他の言語リソースを通じて触れているものに加えて、フランス語圏のさまざまな地域での状況や資料などを素材にしていきます。日本語、あるいは英語の、また英語化されたリソースからだけでは捉えきれない現実と世界の多様性に触れ、実際に市民社会の諸問題に対応していく糧とすることを狙います。

異なる言語・メディアでの情報を吟味し、そして自らの情報発信を準備します。言語や想定する受け手が変化することで内容や方法に変化が生じるようすを実際に感じ取っていきます。こうした振り返りを重ねていき、学期末に向け、社会に公開されたメディアへの投稿を目指します。

●提出課題・試験・成績評価の方法など

アクティビティごとに課題を作業していきます。

成績評価はこちらで準備する評価グリッドによって算出していきます。そこに産出物の点数および分量、自己評価などを加え、総合的に評定を決定します。